

南アフリカ オレンジ輸出量がさらに減少

[EUROFRUIT 2024年7月24日](#)

悪天候と果汁原料価格の高騰により輸出量は2017年以來の低水準

南アフリカの柑橘類生産者協会(CGA)は、2024年出荷シーズンのネーブルオレンジとバレンシアオレンジの輸出量が悪天候によりさらに減少すると報告している。

ネーブルの出荷量は現在、2,100万箱(15kg/箱)と予測されており、これは当初の見通しの2,570万箱を19%下回っており、修正予測の2,200万箱よりも少ない。現在、ネーブルの出荷シーズンが終わりに近づいており、晩生のネーブルが梱包・出荷されている。

バレンシアオレンジの最新の予想出荷量は5,160万箱(15kg/箱)で、シーズン開幕当初の見通しである5,800万箱及び5月時点の見通しである5,600万箱を下回っている。

一方、最近の嵐でインフラが壊滅的な打撃を受け、収穫と梱包が中断されていた西ケープ州のオリファンツ川流域では、輸出を再開しつつある。

同協会オレンジ部会のスティアン・エンゲルブレイト部会長は、「過去2週間の悪天候で予想出荷量がさらに減少した」として、「センウェス地域*の凍えるような寒さにより、その地域の予想出荷量がネーブルで60万箱、バレンシアで100万箱減少した。西ケープ州(シトラスダール地域)は最近の洪水と暴風雨の影響を受けており、東ケープ州は強風の影響を受けている」と述べた。嵐や強風で落果し、霜害も出荷に影響を与えた。(※農業企業センウェス社の事業展開地域。この記事ではリンポポ州のマーブルホール、グロブラースダール両地区を指す。)

リンポポ州の柑橘類生産者でもあるCGAのジャンルイス・プレトリウス副会長は、「今シーズンはオレンジが供給過剰にならないことは明白である。市場の需給バランスは取れている」と述べた。

バレンシアオレンジについては、主要産地であるリンポポ州とムプマランガ州の出荷が進んでいるが、一方、東ケープ州と西ケープ州の生産者が本格的に出荷を開始するのは数週間後になる。

プレトリウス氏は、「これらの修正された数字は、今シーズンの特徴を物語っている。まず、雨が少なく暖かい天候条件により、果実のサイズがやや小さくなった。第2に、国内の搾汁用オレンジの価格が非常に良く、これが生産者を引きつけ、加工用の出荷量が多くなった。第3に、過去2週間半の悪天候が問題を引き起こした。オレンジの輸出量について業界が同様の低い数字を目にするのは、西ケープ干ばつとして記憶されている2017年の出荷シーズン以来である」と説明した。

CGAは、シトラスダールの洪水によるインフラの被害額はまだ計算されていないとしつつ、溪谷の交通が遮断されていたが、ある柑橘類農場の私設の橋を通じて過去数日間に輸出用のオレンジが町から運び出され始めたと発表した。2週間前に激しい雨が降った後、州は災害を宣言している。

CGAはまた、ケープタウン港が効率的な運用に戻ったと付け加えた。自身もシトラスダール地区の生産者である同協会のゲリット・ファンデルメルヴェ会長は、地元コミュニティの一致団結と回復力を称賛し、「出荷の停止は最小限で、今は柑橘類が出荷されている。人々は懸命に働いており、約8～9日で遅れを取り返すことができる」と述べた。

執筆者: フレッド・メインチェス